

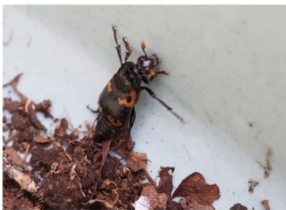
森の日記 2024年7月15日～9月23日

by 迷鳥キツツキ

7月15日は腐生性昆虫の観察会が行われました。講師は帯広百年記念館の学芸員さんでした。2022年にも同じ企画が行われ、今回は2回目でした。森の中4ヶ所に鶏ガラを入れたネズミ捕りカゴを仕掛け、設置5日後および3日後、鶏ガラに集まった昆虫を観察するというものでした。場所ごとに昆虫相の様子は少しずつ異なっていましたが、ヨツボシモンシデムシ、エンマムシ、ヒラタシデムシ、センチコガネ、ハエの幼虫などが共通して見られました。ヨツボシモンシデムシの子育てについてのトピックを学芸員さんから聞きましたが、印象的なお話でした。森の中ではオオウバユリ、エゾクガイソウ、エゾオトギリ、トモエソウ、ヤブハギ、ハエドクソウなど、夏の花がたくさん咲いていました。



左：トラップの下の土を調査。右：トラップの下にいたウジ。



左：ヨツボシモンシデムシ、右：ヒラタシデムシの幼虫。



左：エゾクガイソウ、右：トモエソウ。

7月21日は蝶の調査と植物調査がありましたが、私は所用のため午後からの植物調査だけ参加しました。午前中

の蝶の調査では今年になってから最も多種類で最も多数の蝶を観察できたそうです。午後の植物調査は参加者が少なめで、3名ずつ2グループで調査を行いました。私はいつもの草地方面からの調査班に加わりました。ゲンノショウコ、ミツバフウロ、イチゲフウロなどが咲く季節になりました。その見分け方をすっかり忘れていたのでまた勉強し直そうと思います。花の種類もどんどん変わっていました。アラゲハンゴンソウ、オオアワダチソウ、オオハンゴンソウなどの外来種のキク科の植物がこれからたくさん咲く季節になります。シソ科の花で今まで見たことがない花も見つけました。ヨコスジハナカミキリがウドの花にとまっていたいました。



左：ミツバフウロの花、右：名称不明のシソ科の花。



左：ウドの花、右：植物調査を終えたメンバー。

8月4日はチョウの調査と植物調査が行われました。チョウの調査は最初私を含めて5名で始めましたが、遅れて3名が加わりました。チョウは最初なかなか出てきませんでしたが、次第に増えてきました。ミヤマカラスアゲハも飛んでいました。なかなか網で捕えられるチョウは少なく、リーダーさんの目視で確認する場合も多かったです。モンシロチョウ、ツバメシジミ、クロヒカゲ、ジャノメチョウなどは私でもわかりました。



左：チョウの同定中、右：カラスシジミ

午後の植物調査は4名ずつの2グループで調査を行いました。チョウと同様に植物の種類もすっかり秋めいてきました。家を出発する前の7時20分の時点では午後から一時雨の予報でしたが、なんとか全部の行程で雨に降られずに済みました。ピンク色のネジバナと赤い花のゲンノショウコがほぼ同じ地点に咲いていました。また、特定外来生物のオオハングソンソウが咲き始めました。



左：ネジバナ、 右：ナガボノシロワレモコウ。

8月18日の午前中は、航空法による伐採跡後オオアワダチソウが繁茂した地点にオミナエシ植栽地を拓げるため、オオアワダチソウの剥ぎ取りを行いました。すでにオミナエシが活着している場所でも他の雑草との競合が著しいため、ヤブマメやオオアワダチソウの除去を行いました。



左：作業前の説明、 右：オオアワダチソウの根のはぎとり。

8月18日の午後はチョウ類調査でした。エゾスジグロシロチョウ、スジグロシロチョウ、クロヒカゲなど今までも多く見られたチョウとともに、ヒョウモンチョウの仲間が多く確認されました。



左：ミドリヒョウモン、 右：もりの山方面に登る坂。

9月1日にはチョウ類調査（午前）と植物調査（午後）がありました。2週間前のエゾリスの会に初めて参加した若い会員がその2日後に交通事故（ひき逃げ）で亡くなりましたが、一緒に作業した場所や通った道で彼の姿を思い出すといたたまれない気持ちになりました。チョウ類調査には小中学生も含めて多くの会員が参加しました。好天に恵まれて多くのチョウを観察することができました。



左：オオアワダチソウに囲まれて、 右：パークゴルフ場下。

9月1日午後の植物調査ではいつものように2班に分かれて調査を行いました。1班は森の中の植物の個体数調査を行い、2班はいつものように決まった調査ルート沿いで蕾、花、実を着けている全ての植物の記録を行いました。私は2班に参加しました。実を着け始めた植物が多かったですが、草刈りが行われた道沿いでは再生した植物の開花が見られました。新たに咲いた植物としては、エゾノコンギク、ユウゼンギク、サラシナショウマ、ミゾソバなどが認められました。



左：植物調査1班、 右：サラシナショウマ。

9月16日は森の植生の移植育成試験地で植物の生育程度と定着状態を調査しました。大きく育ったエゾノウワミズザクラやホザキシモツケの樹高や広がり測定し、森林性の草本の定着具合を1メートル四方のメッシュごとに調査しました。ご主人の定年退職により9月末日には郷里の県に帰られる会員さんも参加され、今日が最後の参加になるかもしれないとのことで、お別れの会となりました。



左：根付いたオミナエシ、 右：最後に挨拶されるNさん。

9月23日の午前中はチョウの調査、午後には植物調査が行われました。午前中のチョウの調査には初めて参加された方も2名ありました。お一人は苦小牧で長年生物調査に携わっておられる方でした。気温が低くなったせいかチョウの出現は少なかったですが、クロヒカゲ、スジグロシロチョウ、モンシロチョウ、オオウラギンスジヒョウモン、ウラギンヒョウモンなどを見ることができました。パークゴルフ場北西のカツラの木にはコゲラがいました。



左：チョウの調査出発、 右：ウラギンヒョウモン。

9月23日の午後の植物調査はいつものように2班に分かれて行いました。2班で開花していた植物はエゾノコンギク、ユウゼンギク、アラゲハンゴンソウ、オオハンゴンソウなどで、他は結実した植物をたくさん観察しました。シータテハ、ヒメウラナミジャノメやオオスズメバチも出現しました。午前午後を通じて快晴で気温も最高17°C程度と、快適に調査を行うことができました。



左：植物の調査集合時、 右：ゲンノショウコ。



左：エゾノコンギク、 右：ユウゼンギク。